

図書館だより

第25号

鹿児島国際大学附属図書館報

The International University of Kagoshima Library

— 目 次 — contents

- わたしと図書館 ～Book of Life～ 2～3p
 - 「研究スタイルと資料」 本多 健吉
 - 「レン・ライブラリーの思い出」 中村 隆之
 - 「図書館とのパートナーシップ」 岩井 浩英
 - 「人生の追体験としての読書」 岡田 洋一
 - 「本を読もう」 大西 智和

- これは読んで欲しい先生のお薦め本 ～2階編～ 4～5p
2階フロアにおける先生のお薦め本を紹介

- あなたのお悩み解決し隊!! 6～7p
図書館利用のノウハウを紹介します。今回は参考図書利用の基礎編

- Library Report 8p
2004年度図書館の取組みについて
平成16年度西日本図書館学会秋季研究発表会開催
新スタッフ奮闘中!!
編集後記



わたしの図書館 ~Book of Life~



「研究スタイルと資料」



大学院経済学研究科教授 本多 健吉

私の研究・教育生活の中でこの鹿児島国際大学は3番目の大学である。最初の大学が33年、次が10年、いずれも公立大学で本学は初体験の私立大学。目下ピカピカの1年生である。戸惑うことが多い。

仕事上使い慣れた図書・資料が手近にあっていつでも自由に利用できることが不可欠だ。2番目の大学に移る時期、高齢化時代に備えて、定年もしくは定年間近の退職教員には200冊以内で5年間の図書・資料貸出が認められた（ただし個人研究費購入分に限り）。これは助かった。研究に必要な図書・資料を3分の1世紀にわたってこつこつと収集してきていたからだ。私の専門は国際経済問題。内外の関連主要統計・資料が揃っていないと仕事にならない。2番目の大学に在籍中、最低必要な帯出期限切れの資料を再帯出するとともに、重要国際統計資料の継続収集に努めてきた。しかしいまやタイムリミットが来て、断腸の思いで収集資料の大半を2大学に返却してしまった。目下研究スタイルを含めた現状打開の道を模索中である。



「レン・ライブラリーの思い出」

経済学部講師 中村 隆之

図書館といえば、3年ほど前にケンブリッジのトリニティ・カレッジにある図書館に行った事が思い出されます。その図書館は、セント・ポール大聖堂も設計した有名な建築家クリストファー・レンが1676年に設計したもので、レン・ライブラリーと呼ばれています。そこには普通の本はなく、古くは15世紀の本やケンブリッジに関わった人物の一次資料などが収められています。経済学関係では、ケインズ、ロバートソン、スラッファなどの手紙や草稿などの現物を見ることが出来ます。資料を調べるのも楽しいですが、図書館自体がとても素晴らしいです。閲覧室のある二階部分は、天井が教会のように高く、奥行きのある回廊のようになっていて、両側面にある本棚には古い本がびっしりと置かれています。あたたかな日の光が差し込み、あたりは静まり返っています。大きなレンズを片手に60センチほどある大きな本を一生懸命読んでいるおじいさんもいました。映画のシーンのようです。この閲覧室は紹介状がないと入れませんが、ニュートンの『プリンピキア』（自筆）などの展示は、観光で行っても見ることができます。皆さんもケンブリッジを訪れたときには、この美しい図書館に行くことをお勧めします。



「図書館とのパートナーシップ」

福祉社会学部助教授 岩井 浩英

常々、己の物知らずに辟易している私にとって、図書館とは、広範かつ膨大な知識や情報を誇る頼もしい味方です。図書館とフレンドリーであることは決して損な話ではなく、しばしば、物覚えの悪さを補填してくれますし、忘れっぽさを優しく癒してくれます。

ところで、図書館も、時代と共に進化し続け、今や、「知識・情報ネットワークにおけるステーション」であることを謳っています。これからの利用者として、図書館とはより対等に賢くつき合うべきでしょう。

自分で知識・情報（＝データ）を検索すること、そのコンテンツの意義と質を見極めること、己の思いや考えを新たに発信すること、すなわち、単に図書館から知的恩恵を受けるばかりではなく、図書館財産に新しい知的価値を提供できるようなパートナーシップ関係が望まれているのです。皆さん、ぜひ、図書館とのアカデミックライフを満喫しましょうね。



「人生の追体験としての読書」

福祉社会学部講師 岡田 洋一

私は本を読むスピードは遅いのでそう多くの本を読んでいるほうではないかもしれませんが、しかしいつも本と一緒に生活してきたように思います。大学の教員だから当たり前という声が飛んできそうですが、実は私の人生の大半は病院でのソーシャルワーカーとしての生活でした。特に精神科領域が長かったため生きていくことの意味や援助者としての役割を考えざるを得ない日々を過ごしてきました。その為に精神科領域や福祉の本と同時に小説や文学、ルポルタージュなどに触れてきたように思います。これらの本の中には人生や生活が凝縮しています。つまり本を読むことで一つの人生を追体験することができるのです。ソーシャルワーカーの仕事は行き辛さを抱え自己実現の方向を見失った人たちに対して、彼らと共に自己実現を図るための方向とリソースを探すことだと考えています。この仕事を続けていくためには、若いうちから多くの人生に触れる事の出来る読書が大きな力になると思います。即物的な刺激性の高いものが日本を支配しつつあるような気もしますが、ソーシャルワーカーを希望する皆さんがたが多くの人生の追体験を重ねる為に図書館で時間を費やすことをお勧めします。



「本を読もう」

国際文化学部助教授 大西 智和

授業で本の話が出ると、ついでに、読書を勧めることにしている。単に本を読みなさいといっても説得力がないので、次のような理由をつける。

「1人の人間が一生を通して経験できることはわずかである。しかし、読書することによって、擬似的ではあるが様々な経験を積むことができる。それによって、人生の岐路に立ったとき、より多くの選択肢をもつことができるし、つらい時や苦しい時にも柔軟な対応ができるはずだ。つまり読書は人生をより豊かにしてくれるものである。そうはいっても巷にある本は半端ではない。人々がある程度読み継いできたもの、いわゆる「古典」を読む必要がある」と。

しかし、このような本を毎日1時間、2時間と読むことは、誰でもができるわけではない。ひところ、10分間読書とか5分間読書という言葉をよく耳にした。これなら1日のスケジュールを変更することなく、日々読書に親しめる。短い時間の積み重ねによって分厚い書物でもやがて読破できる。

本学の図書館は充実しており、基本的な文献、古典と呼ばれる類の本は十二分に揃っている。学生諸君は、図書館をおおいに利用し、これからの長い人生を生き抜く心の糧をたくさん得てほしい。



これは読んで欲しい先生のお薦め本 ～2階編～

国際文化学部 上村俊雄教授推薦！



東日本と西日本/大野晋 他著

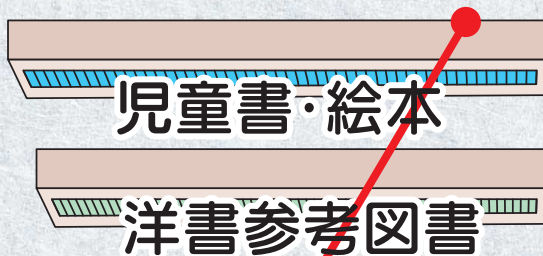
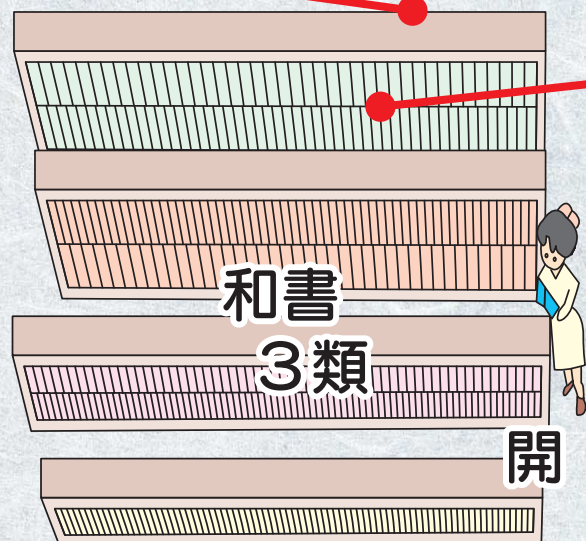
一般書架 361.42//O.5

古代から現代にいたるまで、東日本と西日本との風俗・習慣・言語などの相違は漠然とではあるが、人々に認識されている。東日本と西日本の対立は日本民族あるいは日本文化の成立を考える上で非常に重要な問題である。本書は考古学、歴史学、民俗学、言語学などいろいろな学問分野の視点から、例えば「ことば」「生活」「建築」「宗教」「民謡」「文学」などを通して、東日本と西日本の違いを明らかにしており、非常に興味深い本である。

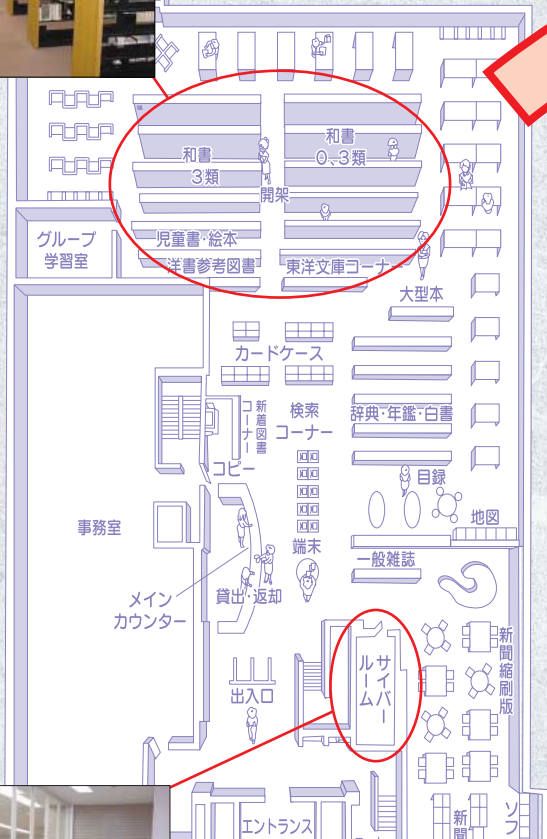


一般書架

0類(総記)、3類(社会科学)を中心に排架しています。
紙芝居・大型絵本など児童書コーナーも充実!!



短期大学部 種村工



サイバールーム

平成16年4月に完成!!
インターネット、電子メール、情報検索を利用することができます。



《大型絵本》 せんたく

児童書コーナー 72

洗濯の大好きなかあちゃん
の絵本。子どもや犬や猫
洗濯物を細かく描きこんだ

ひみつの山の子どもたち:自然と教育/

児童書コーナー 37//ト

1987年頃、長野県南駒ヶ岳の麓にまったく
学校があった。子どもたちは、毎日「ひみつ
たことをもとに国語、算数、理科、社会、図工
“生きる力”とはなにかを考えさせてくれる

経済学部 鳥谷孝男教授推薦！



日本社会の家族的構成/川島武宜著

一般書架 361.63//K.8

憲法改正論議はジェンダーフリーへも鋭先が向けられてきている。この古典的名著の警鐘にもう一度、耳を傾けてみよう。

女工哀史/細井和喜蔵著

一般書架 366.3//H.1

労働者の厳しい哀史は歴史の時を超えてある。昔を^{わら}懐えない。

粹な旋盤工/小関智弘著

一般書架 366.8//K.9

働くということは切ないことだ!!



福祉社会学部 山下欣一教授推薦！



南嶋探検：琉球漫遊記 1-2 /笹森儀助著

東洋文庫コーナー 220.8//H.1//411,428

弘前藩(青森県)出身のもと士族・笹森儀助が1893年(明治26)5月~11月まで沖縄・宮古・八重山・奄美諸島の調査・探検に従事した克明な記録の集大成であり、自らの足で調査地を踏破した記録には瞠目、教示される。

南島雑話：幕末奄美民俗誌 1-2 /名越左源太著

東洋文庫コーナー 220.8//H.3//431,432

幕末薩摩藩上士・名越左源太時敏が薩摩藩のお家騒動に加担したとして1850年(嘉永3)から1855年(安政2)まで奄美へ配流された時に日常生活・動物園まで図入りで解説したのが本書で、資料の少ない奄美にとって貴重で興味深い。

文学部 伊子助教推薦！

くあちゃん/さとうわきこさく・え
26.5//KO

んが、繰り広げる奇想天外なストーリー
フライパンまで、ずらりと干された洗
場面は圧巻。大型絵本化で魅力倍增。

富山和子著



教科書を使わない小
の山」へ入り、体験し
や音楽、体育を学んだ。
本。

あなたのお悩み解決し隊!!



レポート用の資料探しに、悪戦苦闘した！って経験、誰でも一度はあるはず。ここでは図書館の資料や、データベースを使って、図書館利用のノウハウを紹介していきます。

今回はまず、参考図書の紹介をします。

第1回：参考図書で悩みを解決！～基礎編～

■参考図書とは…

資料や事物を調べる時に、必要な項目だけを参照する資料です。身近な例としては、百科事典などがあります。

図書館には「参考図書コーナー」があります。2階正面に入って右手の低い書架の部分が、それになります。では、こういった資料があり、どういうことが調べられるか、以下に紹介します。

◎目録とは！

書名・著者名・本の内容などを、体系的に見出しをつけて並べ・まとめたものです。

『翻訳図書目録』

『全集・叢書総目録』(027.4//N)

『本の年鑑』(025.1//BU)

『日外アソシエーツ発行 全情報シリーズ』

◎年鑑とは！

1年間の統計等の情報を、特定の地域や分野ごとに記録・解説したものです。

『鹿児島県統計年鑑』(351.97//KA) ※注) 1階書庫にあります

『鹿児島県勢要覧』(351.97//KA)

『日本統計年鑑』(351//SO)

◎白書とは！

各省庁ごとにまとめた政府の公式報告書。各種の統計数値や図表の他、行政事業・施策の進行状況、成果を記述・分析してあります。

『経済財政白書』(330.59//KE)

『厚生労働白書』(498.059//GY)

『保育白書』(369.42//ZE)

公務員試験前に
白書も要チェック!!



◎辞典(事典)とは！

一定の順序に従って整理・配列し、解説したものです。あらゆる事柄について、調べたいことの概要を知るためには便利です。

百科事典・・・

『世界大百科事典』(031//SE)

『ブリタニカ国際大百科事典』(031//GF)

『Americana』(033//GR)

『Britanica』(033//E.6)

辞典・事典・・・

『日本歴史地名大系』(291.03)

『文学作品書き出し辞典』(910.26//N)



- ※ 各種言語辞典、地名・人名について調べることのできる資料もそろっています。
その他六法・職員録などもまとめてあります。
詳しい使い方はカウンターに聞いてくださいね。

それでは実際に「鹿児島」というキーワードでは、どんな参考図書が使えるか紹介しましょう。

日本人名大事典

(281//N719)

日本の歴史的人名を収録した事典で、生没年と略歴が記され、人物像、業績を把握することができる。ただし、古語のまま記載されている部分もあり読みにくい場合もある。(全7巻)



日本史跡大事典

(290.2//N)

国指定特別史跡をはじめ、古墳・城跡など1400ヶ所を都道府県別に紹介。(全3巻) 指定年月日と所在地の完全収録。一目でわかる史跡の所在地地図。現地・航空写真が満載。



鹿児島大百科事典

(291.97//M.1)

鹿児島県全般についての知識を得るのに非常に有効な1冊。

内容は自然、人文、社会、文化と多岐に渡り、約7000項目を掲載。



鹿児島を知るには
まずコレ!!



これであなたも
ホントの
鹿児島人!!



野菜園芸大百科

(626//N.1)

日本有数の農業県、鹿児島。「食」として直接口にするものだからこそこだわりたい。原産、歴史、栽培技術、品質など、野菜づくりに関する疑問がすべて解決。



かごつま弁辞典

(818.97//TA)

鹿児島弁を調べたい時にお勧めの辞典。辞典なのに、声を出して笑える!!

鹿児島弁っておもしろい!! を再発見できるお勧めの一冊。



事務長のためになる話

～参考図書架の話～



通常、参考図書を収蔵する書架は「低書架」とよばれる大型本で3段分ぐらいの高さの書架である。なぜなら参考図書は一般的に大型で重たい物が多いので、段の多い普通の書架では、本の出し入れにそれなりの身長と体力が必要となる。その点、低書架は本の出し入れが楽で、天板は机代わりに使用できる。更に、図書の性格上、図書館員の近く、つまり入口付近に排架されるので、低書架が館内の展望確保にも役立つからである。しかし、低書架には収蔵冊数が少ない欠点があり、大学図書館においては致命傷である。そこで、本館では新築時、参考図書架を開発特注した。

この書架の特徴は5段の中型書架をベースにし収蔵冊数を増しながらも、書架の壁にならないこと、そして、一部に3段書架を配置したことにより、より以上の展望確保と低書架の天板を参考図書利用の机にしたことである。まさに一石二鳥の書架である。

Library Report



2004年度 図書館の取組みについて

■ 2004年度ガイダンス実施報告

従来、一斉に実施していましたガイダンスを今年度より時期をずらして春と秋の2回実施しました。利用教育の重要性を再認識し、多様化するサービスに対応できるよう館員のスキルアップをして臨みました。今後も検討を重ね、よりわかりやすいガイダンスを目指していきます。

■ 図書館へいこう！

「図書館に来てもらいたい!!」との主旨より啓発ポスターを作成・掲示しています。お薦め資料、ちょっとした話など紹介しており、今後いろいろな情報を発信していきます。少しでも「**図書館へいこう！**」という気持ちになればと思います。

■ 図書館学生モニター募集

図書館では、より良いサービスの提供を目指し、学生モニターを募集します。活動内容は、図書館の設備、サービスについての話し合いや、学生用図書の見学等を行う予定です。募集の詳細は以下の通りです。

- ・ 募集人員：各学科1名（計9名）
（応募者多数の場合は図書館で人選します。）
- ・ 期 間：6ヶ月
- ・ 活動内容：月1回の会議

★学生モニターについて不明な点がありましたら、図書館事務室までお尋ねください。



平成16年度西日本図書館学会秋季研究発表会開催

本学において、12月4日、西日本図書館学会が開催され、遠くは東京・沖縄からも参集した。当日は、10本の研究発表が約50名の会員を前に行われ、長時間に渡る発表にもかかわらず、研究発表後の質問タイムも盛んで、熱心な意見や批評が展開された。しかし、今回は一人の持ち時間が少なかったため、多少なりとも消化不良の発表者やフロアがいたのではないかと考えている。（藤田）



新スタッフ奮闘中!!

今年度より4名の新スタッフが仲間入りしました。皆、それぞれの部署で日々精進し、新しい風を図書館に吹き込んでくれています。



編集後記



早いもので2004年度も残りわずかになりました。今年、図書館では“新しいこと”を始めました。

まずはご存知の「図書館へいこう！」の掲示。そして職員が集まり、これからの図書館について考える場「図書館を語る会」を始めました。今回の館報はそのなかで作成しました。今までとは一味違うものを目指し、試行錯誤の末にようやく完成させました。なかなかの出来栄と自画自賛していますが、いかがでしょうか？最後になりましたが、忙しい中、原稿を書いてくださった皆様にあらためてお礼申し上げます。ありがとうございました。（E・M）

図書館だより－鹿児島国際大学図書館報－ 第25号 2005年1月31日発行

鹿児島国際大学附属図書館 〒891-0191 鹿児島市下福元町8850

TEL099-263-0732 E-mail lib@ofc.iuk.ac.jp

(URL) <http://www.iuk.ac.jp/14/library.html> (携帯URL) <http://iuk02.iuk.ac.jp/nbp/index.html>